
3つの願いとかよりトイレ行きたいです

カドクラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

3つの願いとかよりトイレ行きたいです

【Nコード】

N6662E

【作者名】

カドクラ

【あらすじ】

電撃Lに投稿したもの。くだらなーいおなはしなんです。そーなんです。

AM8:30分。登校のために、満員の電車にごごと揺られる。もう5月の終わり。夏の暑さが徐々に顔を見せてきた今日この頃。電車の中では、夏に対抗すべく人間の開発した冷房器具という名の英雄がその力を存分に発揮している、というか、張り切り過ぎている。

寒さは服を貫いて肌を刺す。おまけに揺れも激しい。速度もいつもより遅い。

こんな時にかぎって……。もう、これは、車掌の陰謀としか思えない。

苛立ちで、唇を噛んだ。貧乏揺すりが止まらない。

腹痛い、腹痛い、腹痛い、腹痛い、腹痛い、腹痛い、腹痛い、腹痛い、腹痛い、腹痛い！

腹の中でゴムボールがかなりの強さで跳ねまわっている。肛門が内側から、ラグビー部のようなタックルで責められている。冷汗が出て、さらに冷房の効果倍増。

「x駅、x駅」

ドアが開いた。

電車を勢いよく飛び出し、勢いよく飛び出しそんなラグビー部を堪えながら、プラットフォームを進む。そして難関の階段を、泣きそうになりながら必死に登る。

周りの目とか 特に好きな女子の目とか すごく気になっただけど、猛ダッシュ。漏らすよりはマシだ。

なんせ、この駅の男子便所には、個室が一つしかないのだ。とられるわけには、いかない。絶対に。

トイレが見えてきた。しかしまだ、油断はできない。肛門の力は

緩められない。

「あと少し、ファイト」

自分にエールを送る。気分はもうマラソンでの最後のランナー。トイレに入り、すぐに個室へ。

個室の戸は閉まっていらない。よかった。ああ、よく頑張った自分。

「ぱんぱかぱーん！」

「うお？」

思わず、漏れそうになった。

ここは男子便所。なのに、なぜだか……、洋風便器の上に1人の少女が　オカッパの小学生くらいの少女が　座っていた。

「おめでとーございまーす！　あなたでこのトイレの利用者1000万人目でーす」

少女は満面の笑みだ。

「なんと1000万人目のお客様には、特典として、3つのお願い事を叶えて差し上げちゃいます！　あ、ちなみにわたしは妖怪の花子です」

一方の、俺は泣いていた。腹痛はつらいけど、さすがに少女妖怪かなんかは知らないけど　の前では……できない。せめておっさんなら、おっさんの前でなら恥ずかしさを我慢してできたのに……。

少女は便器から飛び降り、俺の前に立つ。頭が俺の胸にも届かない小さな女の子。

「まあまあ、泣くほど喜ばないで下さい」

ぽんぽんと、腹の辺りを叩かれる。

「ああっ」

慰めるつもりだったかもしれないが、今の俺にはボクサーのパンチをくらったような、痛みが走った。

そんな俺を気にする様子もなく、少女は事を進める。

「さあさあ、どうぞ1つ目のお願い事を言ってください」

「……そこ、どいて」

「え、そんなことでいいんですか？」

首は、残像が残るほど、激しく上下に動いた。

少女が1歩右にずれる。

俺が訝しんで見ていると、

「はい、どきましたよ」

こ、ここここ、このゲス野郎っ！

「ふふっ。あ、さあ、2つ目のお願いをどうぞー」

ぜ、ぜぜぜぜぜぜぜ、絶対ぐーでげんこつだからなっ！

とか心の中で叫びつつも、そんなことできるわけもなく俺は言う。

「……トイレから出て行ってください」

「えー、そんなことでもいいのー？」

少女がだだをこねるように、俺を揺らしやがる。

「やめっ、ホントに」

しばらく俺を睨んでいたが、しょうがないとでも言うつようなむくれつつらで、トイレから出て行く。即座に、戸を閉めた。

ベルトに手をかける、前に確認をする。俺はそこまで馬鹿じゃない。こんなベタベタな展開読んでいるんだ。

トイレトペーパーがないというオチ。

予想通り、トイレトペーパーはない。絶対、あの子がやったんだな。

今は腹痛の波も下降気味。冷静に、思考を張り巡らせる。

「よし」

俺は便座の上に鞆を置いて、トイレ待ちの人に事情を伝えて、改札まで行き、トイレトペーパーをもらう。

「ちっ」

うつむき、舌打ちをする少女。

ふふふ。なめるなよ。

ていうか、本当に最低だなこの子。ちょっと将来が心配になる。

とにかく、俺はズボンを下ろし、便座に座った。30分苦しめられた、腹痛に開放される時がきた。

「ここはちょっと自主規制。」

「ふう」

ブツを見て若干笑いながら、トイレトペーパーで尻を拭き、ズボンを上げた。

腹痛の原因とおさらばするために、バルブを押す。

「……ん？」

もう一回、強くバルブを押してみる。

「……」

「ふふふふふ」

こっちもか。

「3つ目のお願いは、なんですかぁ？」

声笑笑っている。

「……水が流れるようにしてください」

「ただの小学生にそんなことができると思います？」

「まじかよ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6662e/>

3つの願いとかよりトイレ行きたいです

2010年11月24日05時39分発行